「第3回抜山記念国際賞」の経過と授賞報告

Report of the Third Nukiyama Memorial Award

吉田　英生（京都大学）
Hideo YOSHIDA (Kyoto University)
e-mail: sakura@hideoyoshida.com

１．はじめに

本会創立50周年を機に創設された抜山記念国際賞（Nukiyama Memorial Award，以下NMA）も2016年に第3回目の表彰を終えました. 筆者はありがたいことに, 2010年5月26日開催の創立50周年記念事業実行委員会において設置された国際賞小委員会以来6年あまり，本賞の立ち上げと3回の選考の場に立ち会わせていただきました．本賞は今後も末長く継続する重要事業ですので，既報[1-2]との重複をできるだけ避けて，以下に事務的な引き継ぎ事項も含めて報告させていただきます.

２．NMA委員会の構成や選考日程

まず，NMA委員会のメンバー構成を表1に示します．3名の日本人委員は，委員 → 副委員長 → 委員長という3期を担当します．一方，4名の外国人委員は毎回2名ずつ改選し，2期を担当します．賞の運営を実質的に主導する日本人委員の継続性を3名で担保しつつも, 委員会全体の過半数以下に抑えられた構成になっています．委員の交代は内規（付録参照）に基づき，贈賞年度の前年の4月または5月の理事会で承認されます.

NMAの授賞式は，表2に示すように，原則として秋の本会主催（共催）の国際会議で行われる場合と夏の国際伝熱会議（IHTC）で行われる場合がありますので，受賞者への早めの通知（授賞式出席依頼）の点から理事会承認のタイミングが異なります．なお，公式発表はどちらの場合も，総会開催日（日本伝熱シンポジウム中日）です.

抜山四郎先生
1896（明治29）年3月15日
～1983（昭和58）年7月2日
有名な沸騰曲線は
1934（昭和9）年―38歳の仕事
1963（昭和38）年本会第2代会長
（伝熱2002年5月号参照）

NMAの公募や選考は，これらのタイミングに間に合うように行います．NMA 2016は表3のようにNMA 2012にほぼ準じました．次回NMA 2018の授賞式はIHTC-16の場ですのでNMA 2014にならいますと，Call for Nominationsは今年6月中，そして12月の理事会に受賞者報告・承認とする必要があります[2].

表2　授賞式と理事会承認のタイミング

受賞式	理事会承認
2012/11/14（IFHT 2012 長崎）	2012/ 4
2014/ 8/14（IHTC-15 京都）	2013/12
2016/11/ 3（IFHT 2016 仙台）	2016/ 4
2018/ 8/14（IHTC-16 北京）	2017/12

表3　NMA 2016の選考日程

2015/10/ 1	Call for Nominations
2016/ 1/31	Deadline for Accepting Nominations
2016/ 3/27	Final Decision by NMA Committee
2016/ 4/23	Approval by HTSJ Board of Directors
2016/ 5/25	Press Release at 53th NHTS in Osaka
2016/11/ 3	Award Ceremony at IFHT 2016 in Sendai

表1　抜山記念国際賞委員会のメンバー構成

年	委員長	副委員長	日本人委員	外国人委員			
2012	笠木 伸英	門出 政則	吉田 英生	A. Bar-Cohen	P. Cheng	G.P. Celata	S. Kandlikar
2014	門出 政則	吉田 英生	岡崎 健	G.P. Celata	S. Kandlikar	J.S. Lee	T.W. Simon
2016	吉田 英生	岡崎 健	円山 重直	J.S. Lee	T.W. Simon	P. Stephan	X. Zhang
2018	岡崎 健	円山 重直	?	P. Stephan	X. Zhang	?	?

（PDFのカラー版でご覧いただくと，交代時期が同一の3名が同色で表されています.）

図1　授賞式にて：藤岡会長・店橋教授・筆者
賞状と盾中には伊達政宗の兜飾りの三日月

3．NMA 2016

第1回目受賞者のPeter Stephan教授（独）と第2回目受賞者のGang Chen教授（米）によって，NMAの重みが理解されたこともあるのでしょう．NMA 2016の推薦は前回同様に多くはなかったものの，推薦された方々は実力者ぞろいでした．7名の委員による厳正な審査の結果，店橋護 東京工業大学教授が，乱流伝熱・燃焼のレーザー計測や直接数値シミュレーションに関する顕著な業績を評価され，第3回目の受賞者に決定しました．3回目にしてわが国から受賞者が出たことは誠に喜ばしく思います．

授賞式は抜山先生の本拠地仙台で開催されたIFHT 2016中日の2016年11月3日，藤岡惠子会長から賞状と盾が授与されました．2016年は抜山先生の生誕120年でもあり感慨もひとしおでした．

4．むすび

伝熱コミュニティーにはパイオニアの名前を冠した賞がいくつかありますが，国内外の皆様のご尽力で，それらの中でもNMAは確実に最も権威のある賞の一つとしての存在感を示すに至ったように思います．当初の予定では第10回 ― NMA 2030までの贈賞となっておりますが，きっとさらに将来にも本賞は継続することと思います．そして，受賞者の栄光とともに抜山先生のパイオニアとしての仕事もずっと世界の人々に記憶されることをたいへん嬉しく思います．

ここで，抜山記念国際賞の賞状や盾を真心込めて制作していただいてきた東京クリエイティブ社について，前報[1]にも少し説明がありますが，補足させていただきたいと思います．同社の高橋由貴彦氏は，抜山先生のご次男 抜山勇氏（故人）と仙台二中・二高とも同級で親友だったとのことです．抜山勇氏は東北大学法学部，一方高橋氏は工学部で抜山先生の講義を感銘深く聴講されたとのことでした．東京クリエイティブ社ではご子息の高橋宏貴氏と一緒にお仕事をしておられましたが，今回の授賞式に際して賞状と盾をお渡しいただく直前に逝去されました．なにか因縁深いものを感じます．なお抜山勇氏の奥様の抜山映子氏は弁護士としてお仕事を続けられており，毎回の授賞式直後にご報告申し上げている次第です．

筆者はこれでNMA委員会を退任いたします．振り返って個人的にとりわけありがたく思っておりますことは，国際賞小委員会設置直後の2010年6月20日に宮内敏雄委員長と牧野俊郎副委員長に宛てたメールで「賞の名前はやはり由緒があり覚えやすいものがよいと思います…日本人の中では別格の知名度とパイオニアとして抜山四郎先生の名前を挙げたいと思います」と申し，それを実現していただいたことです．ありがとうございました．

付録

抜山記念国際賞委員会の委員交代に関する内規

①総務担当副会長は日本伝熱学会役員（理事および監事）に役員一人あたり日本人3名以内，外国人3名以内の候補者（氏名，所属，e-mail address）の推薦を依頼する．

②総務担当副会長は退任予定の選考委員（3名）に委員一人あたり日本人3名以内，外国人3名以内の候補者（氏名，所属，e-mail address）の推薦を依頼する．

③国際賞委員会において，候補者の内から3名の最終候補者を選考する．

④国際賞委員会は会長，副会長と協議して3名の最終候補者の順位付けを行う．

⑤国際賞委員会において，上位3名の最終候補者を任期2期のMember（3名）候補者とし，理事会に報告する．　（2012年4月21日）

参考文献

[1] 門出政則，「抜山記念国際賞」の経緯と授賞報告，伝熱，52-219 (2013) 1.
[2] 門出政則，「第2回抜山記念国際賞」の経緯と授賞報告，伝熱，53-225 (2014) 97.